No.54号

社教連会報

発行　社団法人　全国社会教育委員連合

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-18-1
虎ノ門10森ビル TEL 03-3580-0608

子どもの居場所づくりに向けて

文部科学省生涯学習政策局長
銭谷眞美

庁舎建替えのため、新年より文部科学省は霞が関から丸の内へ移りました。次年度に向けての取組が本格化するにつれ、新しい職場にも徐々に慣れてきたところです。

昨年は重大な少年事件が相次いで起きるなど、青少年の問題行動の深刻化が指摘されました。また、子どもたちの状況として、人間関係の希薄化や社会体験・自然体験の不足などによって、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性などが十分に涵養されていないのではないかとの指摘もあります。

このため、文部科学省では、地域の大人の力を結集し、学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちがスポーツや文化活動などの多彩な活動ができる「子どもの居場所づくり」を積極的に推進するとともに、すべての教育の出発点である家庭教育の支援などにもしっかりと取り組んでまいります。さらに、国民の奉仕活動・体験活動を支援する推進体制の整備や社会的機運の醸成、モデル事業の実施、学校における豊かな体験活動の促進などにより、奉仕活動・体験活動のさらなる推進を図ってまいります。

このような取組を進めるにあたっては、現場において、学校教育や福祉分野との橋渡しを行う社会教育関係者・団体の協力が不可欠です。様々な関係者が相互に連携し合い、地域の教育力の向上に向けて積極的な取組が行われることを強く期待します。

また、昨年三月、中央教育審議会から「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」(答申)をいただきました。答申では、新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成を目指し、それを実現していくための「教育基本法の改正」及び「教育振興基本計画の策定」が提言されています。今後とも、国民的な議論をさらに深めながら、教育基本法の改正と教育振興基本計画の策定にしっかりと取り組んでまいります。

ぜにや　まさみ
昭和24年　秋田県生まれ
48年　文部省入省
56年　三重県教育委員会指導課長
平成3年　生涯学習局学習情報課長
9年　大臣官房総務課長
10年　同　審議官(初等中等教育局担当)
12年　内閣審議官(教育改革国民会議担当室長)
13年　文化庁次長
15年　生涯学習政策局長

さあ語ろう！こころ開いて明日の社会を

古都ならに二二〇〇名参集　第45回全国社会教育研究大会

「時代の変化に対応した新しい社会の創造を目指して」の主題のもと「さあ、語ろう！こころ開いて明日の社会を」をスローガンに、第四五回全国社会教育研究大会奈良大会は、なら一〇〇年会館をメイン会場に、二二〇〇名の参会者を得、去る一〇月八日～一〇日の三日間、好天に恵まれ、成功裏に終了することができました。近畿地区社会教育委員連絡協議会をはじめご支援いただきました全国の関係機関並びに団体の皆様に心より御礼申し上げます。

初日の開会行事では、主催者、来賓から、現在わが国社会の直面する諸課題、特に地域社会の連帯性の強化と地域や家庭の教育力の回復の必要性、社会教育の役割の重要性が指摘され、本大会への期待が述べられました。

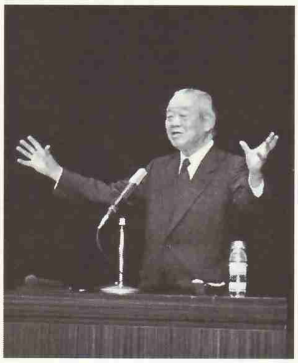
次いで、長年にわたる社会教育への貢献に対し、六五名に表彰状が、二名に感謝状が、全国社会教育委員連合会長より贈呈されました。

基調講演は、「動物園は心の学校」と題し、元神戸市立王子動物園飼育技師で学芸員の亀井一成氏がスライドを交え、動物の生活を通して私たち現在の家庭や地域社会のあるべき姿について問題提起をしていただきました。

満員の会場（なら100年会館）

アトラクションには、「歌う街には福来たる」のテーマで、奈良市音声館（おんじょうかん）荒井敦子館長と館員による記念コンサートが催され、わらべ歌を中心にした音楽療法や地域ふれあい活動の実践状況が紹介され、楽しい心情の交流を基調とする社会教育実践運動の基本について深い示唆をいただきました。

第二日は、家庭教育、学校週五日制と地域の教育力、ボランティア活動、生涯スポーツ・健康つくり、人権教育、成人教育、男女共同参画社会の構築、生涯学習のまちづくりの八部会で、各地の多様な社会教育活動の実践状況や研究成果が発表され、熱心な討議が展開されました。社会教育の今日的な課題の解決をめざすたくさんの取組みが提案され、参加していて、実践への新たな構想と意欲に胸が熱くなるのを覚えました。


河合隼雄先生

第三日は、記念講演として、「子どもの声を聴く」と題して、河合隼雄文化庁長官が、ユング派分析心理学者としての体験を踏まえ、今日わが国が直面する教育の閉塞状態を打開する最も確かな方法として、親や教師や大人が、子どもとごく自然に心を通わせることの大切さと、その方法を実にわかりやすく説かれ、大きな感銘を与えて下さいました。

次いで、大会宣言文が採択され、すべての人々が独創性、創造性に富んだ心豊かな人間として、互いに強い絆で結ばれ、地域活動に主体的積極的に参画し、学校・家庭・地域社会が連携協力する、新しい時代にふさわしいコミュニティの創造が必要であることを再確認しました。

最後に、閉会行事があり、次年度第四六回群馬大会での再会を約し、三日間の大会を終了しました。

大会後、「心に残る素晴らしい大会でした」と多数の方々からお褒めの言葉やお礼のお便りをいただきましたが、ひとえにご参加の皆様の熱意あるご協力のお陰と衷心より御礼申し上げます。

終わりに、来年度群馬大会のご成功をお祈り申し上げ、今大会の報告とさせていただきます。

奈良県社会教育委員連絡協議会
会長　高橋史郎

第46回（平成16年度）
全国社会教育研究大会〔群馬大会〕のご案内

大会の概要

大会スローガン　生涯学習社会に新たな風を！
研究主題　求められた社会教育の原点から今を考える
期日　平成16年10月27日（水）～29日（金）
主会場　群馬県民会館（前橋市日吉町１－14－14）
大会日程

【第１日】10月27日（水）　12：00から受付（群馬県民会館）
◎記念演奏会　13：00～14：15　群馬交響楽団
◎開会行事　14：30～15：25
◎基調講演　15：30～16：30
（財）日本視聴覚教育協会　会長　井内慶次郎さん
（元文部事務次官）

【第２日】10月28日（木）
◎部会別研究協議　10：00～15：00（８部会）
「社会教育委員の姿と今後の方向」、「学社連携・融合と青少年教育」
「少子・高齢化社会と社会教育」、「生涯学習とまちづくり」、「自然理解と環境保全」
「市民活動と社会教育」、「市町村合併と社会教育」、「社会教育施設とその連携」

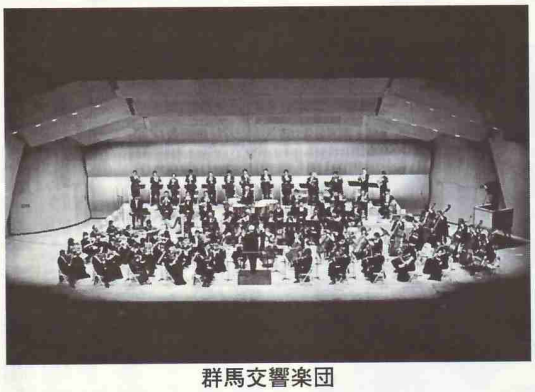
【第３日】10月29日（金）　９：20から受付（群馬県民会館）
◎記念講演　10：00～11：30
ぐんま昆虫の森　園長
矢島　稔さん
◎大会宣言文決議　11：30～11：40
◎閉会行事　11：40～12：00

尾　瀬

大会の特徴

私たちは現在、社会や政治・経済、地域の混乱による青少年や社会の問題など深刻な課題を抱えております。

しかし、世界に類のない施策であり、世界に誇る宝というべき社会教育法、公民館など日本の社会教育はその力さえあれば、このような現代社会が抱える多くの課題に対応できるものであると確信しております。この社会教育法とその精神について、また、その基となった日本人の心を改めて学び、確認しあい、揺らいでいるとも言われる社会教育の真の発展のために新たな一歩をしるす大会になればと存じております。


群馬交響楽団

群馬県は、関東平野から埼玉、長野、新潟、福島、栃木各県の山岳地帯に扇状にせり上がって行く地形で、軽井沢、浅間、谷川、尾瀬、日光などが県境を彩っています。群馬県内には、百に及ぶ温泉地があります。大会の前後に日程をとってお楽しみいただければと存じます。

大会初日には、群馬交響楽団の演奏会でお迎えしようと準備を進めております。

群馬県社会教育委員連絡協議会
会長　大西　康之

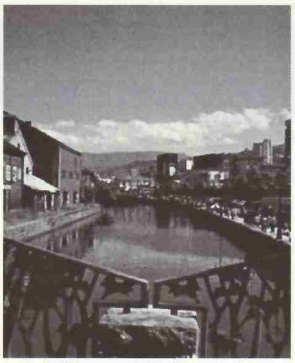
この大会は、平成16年度関東甲信越静地区社会教育研究大会と兼ねて開催されます。

平成一五年度 地区別社会教育研究大会

北海道地区

市町村合併への対応など

北海道地区大会は『歴史とロマンの街、おたる』において、一〇月二日～三日の両日、道内から六五〇名が参加して開催された。研究主題は市町村合併への対応など、新たな社会システムが推進されることを予測し、「変動する社会に対する社会教育のあり方」と設定した。


中央橋から小樽運河を望む

一日目の基調講演は、全国公民館振興市町村長連盟会長井原勇氏を講師にお招きし、市町村合併を進める上での課題、社会教育委員はどう関わったらよいかなどを感銘深く拝聴した。午後の分科会は七分科会とも継続四年次であり、充実期にふさわしい実践上の成果や更に発展させる方向で活発な意見交換が交され、平成一七年度全国社会教育研究大会［北海道大会］に、北海道から発信できる期待感が高まった。

二日目は、小樽は『ガラスの街』として知られているが、その先鞭をつけられたガラス造形家浅原千代治氏による「人生一回やおまへんか」と題した講演を拝聴した後、大会決意表明文を採択して幕を閉じた。

北海道社会教育委員連絡協議会
事務局長　黒崎　匡俊

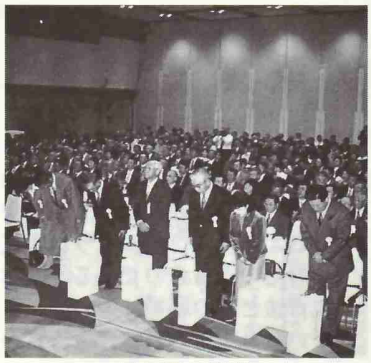
東北地区

賢治の心にふれて

東北地区大会は宮沢賢治の故郷花巻温泉において六〇〇名が参加して一〇月二三・二四日に盛大に開催された。

第一日目は、アトラクションとして賢治の愛した郷土芸能「鹿踊り」に始まり、記念講演として中国人の賢治研究家王敏氏の「宮沢賢治と私～混成型人間像からの啓示」と題した講演が行われ、賢治の思想の真髄に触れた内容が、参加者に深い感銘を与えた。

第二日目は、本大会の研究主題である「時代の変化に対応した新しい社会教育のあり方を考える」に基づいて、子どもたちの奉仕活動・体験活動、家庭教育・子育て支援、時代の変化に対応した社会教育行政、男女共同参画社会づくり、高齢化社会に対応した社会教育の五分科会に分かれて、実践事例の発表に基づく質疑と研究討議が熱心に行われた。最後に、これからの社会教育の振興に向けての決意を大会宣言として満場一致で採択して大会を終了した。


功労者の表彰

岩手県社会教育連絡協議会
会長　堀川　英俊

関東甲信越静地区

はじめての大会アピール

関東甲信越静地区社会教育研究大会は、九月四、五日の二日間にわたり、予想を越える一四〇〇人の参加者を得て箱根で開催された。今回の大会のテーマは、「やろうよ！広がる〝みんなのこころ〟―いつでもどこでも生涯学習―」で、各地域での社会教育活動の成果や課題等について研究協議するものであった。とくに今大会での特色は、分科会でだされた内容を二日目の芦ノ湖フォーラムに結びつけ関東甲信越静地区社会教育研究大会ではじめての大会アピールをだすことができた。

芦ノ湖フォーラム

芦ノ湖フォーラムの内容は、「青少年（子ども）・家庭教育につながる内容に絞って、地域・家庭・学校とのかかわりや、社会教育委員としての役割について論議」するものであった。青少年の体験の重要性、小さいときからの人間関係のかかわり方などが活発に論議されて大変好評であった。アピールの内容を一部紹介すると、子どもの奉仕活動・体験活動の支援、家庭や地域の教育力の

向上、人権教育の推進などで非常に実り多き大会であった。

神奈川県社会教育委員連絡協議会
会長　蛭田　道春

東海北陸地区

地域社会と伝承文化を考える

日　程　平成一五年一〇月三〇日（木）～三一日（金）
開催地　三重県志摩郡阿児町
参加者　約一〇〇〇名

アトラクションでは、地域と学校が協力して国指定重要無形民俗文化財の保存に取組む阿児町安乗地区の「安乗の人形芝居」が、阿児町立安乗中学校文楽クラブにより上演されました。

記念講演

「ふるさとの伝承文化に学ぶもの」と題した紀伊長島町小倉肇教育長の記念講演では、地域に残されている伝承文化を次代に伝えていくことは、今を生きる大人の責務であり、そのことが地域社会の共同体の精神的支柱になるという話を聞くことができ、参加者一同非常に感銘をうけました。

二日目は、「家庭教育～地域における子育て支援」「青少年教育～青少年の生きる力を育む奉仕活動・体験活動の推進」など七つの分科会で、東海北陸各県の取り組みをもとに活発な意見交換が行われ、大会テーマに沿って議論が深められました。

三重県社会教育委員連絡協議会
会長　片山　満徳

中国・四国地区

出雲の文化にふれながら

日　程　平成一五年九月一一日～一二日
開催地　松江市（島根県民会館）
参加者　七〇二名（県内三五四・県外三四八）

全体会、分科会共に同一会場に設営した。

シンポジウム

初日の講演は「古代遺跡との出会い」と題して、三五八本の銅剣、三九個の銅鐸などの発掘調査に関わった体験をもつ勝部昭県民会館館長から、スライド写真を利用しつつ古代出雲の姿に迫る話があった。

アトラクションは、中学生がクラブ活動で学習した、出雲の伝統文化である神楽「簸之川大蛇退治（ひのかわおろちたいじ）」を披露した。分科会は「生涯学習と地域づくり」「学社連携・融合」「家庭教育」「人権・同和教育」の四分科会を設け発表、協議を行った。

二日目は「完全学校週五日制から見えてきた課題」のテーマで、広島、徳島、高知、島根から登壇、シンポジウムを行った。

島根県社会教育委員連絡協議会
会長　田部　保富

九州地区

一五〇〇人が参加

平成一五年一〇月三〇日より二日間にわたり第三三回九州ブロック社会教育研究大会が熊本市で開催された。九州各県より一五〇〇名を超える参加で盛大に開催出来た。

大会テーマは「パートナーシップで創り出す新しい公共～地域の時代における社会教育委員の役割～」

一日目は、六分科会において、各会場テーマの下に事例発表並びに討議が行われた。

アトラクション

第一会場は、地域の教育力を考える・第二会場は、家庭教育力を考える・第三会場は、生涯学習と奉仕活動、体験活動を考える・第四会場は、人権を考える・第五会場は、環境を考える・第六会場は、社会教育委員の役割を考える。各会場とも活発な意見討議が行われ、素晴らしい分科会であった。

二日目は女子高校生徒のアトラクション「山鹿灯篭踊り」で始まり、開会行事の後、熊本県立大学教授石橋敏郎氏により「人を育てる」と題して基調講演が行われた。閉会後、次年度開催県で皆、元気で逢う事を誓い合い解散した。

今後の課題として、大会予算確保に早めに取り組みたいこと、そしてもっと立派な大会にしたいと思う。

熊本県社会教育委員連絡協議会
会長　松本　正

「社教連」だより

秋の全国大会にあわせて第二回総会及び理事会を開催

第二回総会

平成一五年一〇月八日（水）午後五時から六時まで、奈良大会の開催にあわせて、社教連の第二回総会が三井ガーデンホテル奈良四階「飛天の間」で開催されました。

議案は、第一号議案が平成一六年度全国社会教育研究大会（群馬大会）の開催について。

群馬県大西康之会長から開催要項案を説明。平成一六年一〇月二七日（水）～二九日（金）の三日間、群馬県前橋市での開催が、原案のとおり承認されました。（本紙三ページ参照）

第二号議案は平成一七年度の開催地区について。事務局から平成一七年度は北海道地区が大会開催の順番の当たる旨発言。これを受けて村田仁美北海道会長から、資料により平成一七年一〇月二六日（水）～二八日（金）、北海道帯広市内において開催したい旨説明があり、異議なく承認されました。

次に、事務局から、平成一五年八月現在で調査した「社会教育委員に関する調査」の結果が報告されました。調査は、現在進められている市町村の広域合併により、社会教育委員の人数にどのような影響が出るかを調べたもの。

調査によれば、社会教育委員の現在数は、全国で三万六千百八九人。

全国で五〇五の合併協議会が設置され、二千三七市町村がこれに参加していることがわかりました。合併により減少が予想される委員の数は、「不明」というところも多く明確な数はつかめませんでしたが、厳しく考えると、全体の半数近くが減少することも予想されます。

これを巡って、県内で合併後の県社会教育委員連絡協議会のあり方（事業、財政、組織など）を検討する委員会を発足させた等の発言がありました。また大橋会長からは、住民自治の観点から、合併前の旧市町村単位に地域自治組織を導入する「行政区内分権（都市内分権）」という考え方や、中教審のように課題ごとに分科会を設けるなど、委員数を減少させない方法がある。いづれにしても、社会教育委員の存在感を高めることが大切との発言がありました。

最後に、富山県の宮本仁吾会長から、平成一八年度の研究大会は順番として東海北陸地区の富山県になると思う。開催の見通しはどうかとの質問があった。これに対して大橋会長から、財政的には厳しいと思うが華美にならないよう工夫し、実施する方向で努力する以外ないのではないか。明日の理事会でも検討したいとの発言がありました。

第二回理事会

総会の翌日、一〇月九日（木）午前一〇時から一二時まで、なら一〇〇年会館会議室において第二回理事会が開催されました。

議題は「今後の社教連の運営について」

はじめに、事務局から「社教連の収入予測（グラフ）」に基づき、平成一七年度以降、国庫補助金の打切り、基本金利子収入の減少により、社教連の経常収入の大幅な減少が予想されることを説明。

また、一五年五月一〇日の第一回理事会における申し合わせ事項「平成一五年度以降の社教連の財政運営について」を再確認しました。

すなわち

○地方財政の厳しい状況、また市町村合併による委員数の減少などで社教連の会費を値上げすることは、きわめて困難。

○平成一五～一七年度はできるだけ経費の節減を図って運営に当たり、全国大会、地区大会は従前どおり実施する。

○一八年度以降の運営については、市町村合併の結果による都道府県連の状況を見ながら理事会等において協議する。

はじめに大橋会長から、財政について考える前に事業について考えたい、たとえば研究大会は全国大会のみにして地区大会を止めるということが考えられるかと問題提起がありました。それに対し各理事から、地区大会は、出席しやすいこと、きめこまかい協議が出来ることなどのメリットがあり、ぜひ継続したいとの発言がありました。

社教連制定
社会教育委員バッジ
ピン式（男女兼用）
頒布価額一五七五円
お申込みは直接社教連へ
03―3580―0608

大会の経費については、まず参加費にたよること、さらに広告収入等その他の収入を考えるとともに、華美にならない、経費のかからない運営を工夫するなどして、基本的に継続する方向が確認されました。

つづいて、全国で進められている広域合併協議会の検討項目のなかに、社会教育委員に関する事項が入っていないことがあるとの発言から、社会教育委員として、検討項目に入れるよう働きかけるための緊急アピールを出すことが発議されました。アピールには、あわせて文部科学省生涯学習政策局が来年度以降推進しようとしている「社会教育活性化21世紀プラン」「子どもの居場所づくり新プラン」の推進についても触れることとし、文案は会長に一任されました。

その結果作成されたものが次の「申合わせ事項（緊急アピール）」です。

なおこのアピールは奈良大会の最終日の全体会において、出席者の賛同を得て採択されました。

申合わせ事項（緊急アピール）

1　全国の社会教育委員は広域合併協議会の検討事項に、社会教育委員制度の設置に関する事項を入れるよう申し入れること。

なお、その際、地域の特性にもとづく社会教育を推進するためにも、合併前の社会教育委員の定数を削減することがないよう、かつ「行政区内分権」の動向も踏まえて、社会教育委員の存在の必要性を積極的に行政に働きかけること。

2　文部科学省生涯学習政策局が来年度以降推進しようとしている「社会教育活性化21世紀プラン」を全国各市町村で積極的に受け止め、推進するよう、全国の社会教育委員は、行政に働きかけること。

3　今日の青少年の様々な事件に鑑み、地域で青少年を育成する活動に全国の社会教育委員は積極的に協力、参画すること。

その際、文部科学省生涯学習政策局が来年度以降推進しようとする「子どもの居場所づくり新プラン―地域子ども教室推進事業」を全国各市町村で積極的に受け止め、推進するよう、全国の社会教育委員は、行政に働きかけること。

また、全国の社会教育委員は地域で、大人と子どもが一緒に地域クラブ活動等ができるよう、地域教育活動をより充実・発展させるために行政及び地域住民に働きかけること。

平成15年10月9日
（社）全国社会教育委員連合理事会
第45回全国社会教育研究大会（奈良大会）において採択

「緊急アピール」補足説明

文部科学省平成一六年度予算案から

社会教育活性化21世紀プラン

地域の学習拠点・社会教育施設を活性化する

公民館や図書館など社会教育施設の現状は、予算や専門職員の不足などもあり、例えば公民館では、趣味やお稽古ごとの講座、図書館では本の貸し出し業務など、従来型の事業の繰り返しに陥りがちで、地域の課題や住民のニーズを的確にとらえたものとなっていないことが多いのではないかと思われます。文部科学省では、こうした状況を踏まえ、新たに、社会教育施設に対するソフト面での支援を図るため、「社会教育活性化21世紀プラン」を平成一六年度、予算化します。

この事業のポイントは、まず今までの事業の現状についての評価・分析を行ったうえで、新しい事業を企画・実施し、事業実施後には再度評価や今後の課題の抽出などを一体的・総合的に行って行くというもの。

事業は二つのパターンがあり、①公民館、図書館など特定の施設が中心となり、さまざまな現代的課題や地域の課題について、施設の特徴を生かしながら事業を展開する「機能高度化事業」②たとえば環境教育の推進など重点分野を設定し、各社会教育施設が相互に連携協力して事業を展開する「重点分野相互連携事業」

これらの事業を、希望する市町村等に実施依託し、それらの先導的事業をモデル事業として、実践事例集やシンポジウムなどにより広く普及啓発していきます。

子どもの居場所づくり新プラン

地域が協力して、放課後や週末、学校を子どもの居場所に

「子どもの居場所づくり新プラン」は、全国の学校を活用して、校庭や教室等に、安全で安心して活動できる子どもたちの居場所（活動拠点）を三カ年計画で、緊急かつ計画的に用意しようというもの。平成一六年度は全国で四〇〇〇校の整備を予定しています。そこに地域の大人、退職教員、大学生、青少年団体や社会教育団体の指導者などを「安全管理員・活動指導員」として配置し、小・中学生を対象に、放課後や週末などにスポーツや文化活動など、さまざまな体験活動や地域の人々との交流活動を実施します。

また、コーディネーターも併せて配置し、ボランティアなどの人材を確保・登録して子どもの居場所へ配置します。

近日刊行（平成16年３月刊行予定）

変化する時代の社会教育

― 社会教育委員必携（最新版） ―

伊藤　俊夫　編

社会教育の入門書として最適

定価1260円（税込）Ａ５判128頁

Ⅰ　社会教育の基本
1　社会教育とはなにか
2　生涯学習とはなにか
3　社会教育の歴史
4　社会教育行政の仕組みと役割
5　社会教育の施設と団体
6　社会教育の職員と指導者
7　社会教育の形態と方法
8　社会教育委員の職務と責務

Ⅱ　社会教育及び関連の施策
1　文部科学省の社会教育・青少年施策
2　地方公共団体の社会教育施策
3　文部科学省のスポーツ施策
4　文化庁の芸術文化施策
5　文部科学省の学校教育施策

Ⅲ　社会教育の今日的課題
1　家庭教育の向上と社会教育
2　青少年の体験活動と社会教育
3　青少年を取り巻く犯罪と社会教育
4　学校教育と社会教育の連携・協力
5　男女共同参画と社会教育
6　高齢社会と社会教育
7　むらおこし・まちづくりと社会教育
8　ボランティア活動と社会教育
9　人権教育と社会教育

Ⅳ　社会の変化と社会教育
1　社会教育と地方分権・規制緩和
2　社会教育とPFIなど民間活力
3　社会教育と自己点検・自己評価・説明責任
4　社会教育と高度情報通信技術社会
5　社会教育と「知識社会」

各項目とも、理論と実践に秀でた第１人者が執筆

発行（財）全日本社会教育連合会
０３－３５８０－０６０８
お近くの書店または上記発行所にお申し込み下さい

編集後記

最近、全国社会教育研究大会の前身である全国社会教育委員研究協議会の初期の資料に目を触れる機会がありました。当時すでに、地域をこえて全国的な情報交換を求める声が叫ばれ、全国協議会（大会）が充実発展してきた様子がうかがえ、感動しました。

平成一六年度第一回理事会・総会
日時　平成一六年五月一〇日(月)
午前一〇時三〇分～　理事会
午後一時三〇分～　総会
会場　ホテル・フロラシオン青山
後日正式のご通知を発送します。

好評発売中

豊かな体験が青少年を育てる
―学校・地域・家庭が連携・協力―

伊藤俊夫　編

定価　1575円（税込）
発行　（財）全日本社会教育連合会
TEL 03-3580-0608